

(別紙)

	目標 数値	目標 年度	取り組み状況	今後の施策等
輸入コンテナ貿易について、船舶が入港してから貨物がコンテナヤードを出ることが可能になるまでに必要な時間	2日 程度	平成 17年 度	平成10年: 3.6日 平成13年: 3.1日 (コンテナ貨物は 2.4日)	・主要港湾24時間フル オープン化 ・輸出入・港湾関連手続 のワンストップサービス
自動車専用道路等のICから10分 以内で到達可能となる主要な空港 及び港湾の割合	約9割	21世紀 初頭	平成12年 空:46%, 湾:32% 平成14年度末 空:56%, 湾:39%	・引き続き整備を推進
・3大都市圏における人口集中地区 の朝夕の平均走行速度の改善 ・トラックの積載効率の向上	25km/h 50%以上	21世紀 初頭	【平均走行速度】 大幅な改善は 見られない 【積載効率】 平成11年 44.8% 平成12年 43.7%	・環状道路等の整備 ・ボトルネック対策等 ・TDMの推進等
長距離雑貨輸送分野のモーダルシ フト化率(全輸送機関に占める鉄道・ 内航海運の利用率)の向上	50%以上	2010 年 (平成 22年)	平成10年 42.9% 平成11年 40.4%	・内航海運競争力強化 ・貨物鉄道輸送力強化 ・幹線物流の環境負荷低減 に向けた実証実験を支援
・パレタイズ可能貨物のパレタイズ比率向上 ・標準パレットの比率を欧米並みにする	・約9割 ・5~6割	平成 17年 度	「ユニットロード 普及実態調査」 を実施中	・パレット回収問題是正のため 共同システム構築に向け検討 ・パレットの標準化の推進
・内貿ターミナルへ陸上交通を用いて半日 以内で往復できる人口比率の向上 ・輸出入コンテナの陸上輸送費用の削減	・約9割 ・平成9年 比で3割減	21世紀 初頭	平成13年度は着実 に複合一貫輸送に 対応した内貿ターミ ナルの整備を推進した	今後も着実に整備を 推進する。